

～ウランの力で命をつなぐ 最先端がん治療～

鏡野町が岡山大学をサポートし、文部科学省からの予算を受け設立された岡山大学中性子医療研究センター（NTRC）は、ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）を、安全で確実ながん治療法として確立させるための活動を進めています。

次世代がん治療法として期待されているBNCTは、ホウ素薬剤をがん患者さんに投与し、ホウ素薬剤が、がん細胞に集まってきた一番良いタイミングで、そこに中性子を当て、ホウ素と中性子との反応するエネルギーでがん細胞をやっつける、「切らずに治す」新しいタイプのがん治療法です。

日本はBNCTの研究、開発、臨床の全てにおいて世界のトップレベルを走っており、2020年6月より手術ができない局所進行・再発の頭頸部がんを対象に世界初の保険適用が開始されています。しかし、現時点では国内で認可されたホウ素製剤は1種類しかなく、頭頸部がんにしかな使用することができません。

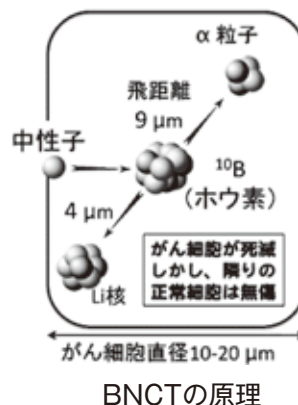
がんには多くの種類があり、それぞれ様々な顔つきや性格を持っています。今治療に使われている1種類のホウ素製剤だと、この多種多様ながん細胞の全てに対応することは困難です。NTRCでは適用がんの選択肢や治療効果を高めるために、既存のホウ素とは異なる新しいタイプのホウ素薬剤開発に取り組んでいます。

この研究が進み、多くのホウ素製剤をがん細胞に取り込ませることができれば、飛躍的にBNCTの治療効果が上がります。

NTRCでは、専従、兼務合わせて約20名のスタッフが、新しいタイプのホウ素薬剤を始めとしたBNCTの技術開発や、国際原子力機関IAEAと国際的なBNCTの技術文書を定めるための活動をしています。

新しいタイプのホウ素薬剤の開発では、今年、国際的な学術雑誌に研究成果が掲載され、日本経済新聞等でも紹介されて話題になりました。今後は、治療効果と安全性を確かめる研究を進め、なるべく早くに患者さんへの治験を実施することを目指しています。

今回は、薬剤開発の研究について詳しくご紹介します。



お問い合わせ先 鏡野町まちづくり課 担当:小林 電話(0868)54-2982